ごぶさた通信

21世紀 第1号

すず吉産地の家族新聞

21世紀になって最初の家族新聞をお届けします。皆様それぞれに変わりはてていることと存じます。

百姓一揆でも起こしたくなるような新世紀はじめの一年でしたが、まぁ百姓一喜から百姓溢喜へ、さらには千年にもあやかって飛躍しよう一気へと、楽しみながら頑張りたいと思います。

大きなお世話でしょうけど、都会暮らしですり切れそうになったら野良が効きますよ。

百姓溢喜

…私たちが生産から後退すれば、その分がどんどん輸入農産物に置き換わってしまいます。逆に、すでに輸入品に置き換わっているところを再び国産品で取り戻すという大志に立つならば、自分たちの生産したものを届ける先は無限ともいえる広がりを展望することができます。

最近、ある新聞小説で、いわゆる引きこもりの女性が農業青年との交流や農業生産の現場にふれるなかで、再び社会との関わりと、生きる元気とを取り戻しつつあるストーリーが展開されています。

作物を栽培して収入を得るだけにとどまらない、やすらぎと人間性回復の場としての農業のもつパワーを改めて見直したいと思います。そして、不景気に沈む人と地域を元気づける産業として社会との接点を広く深くしながら、自分たちと隣人を共に励まし、生き残り、向上していこうではありませんか。

（県北農民センター 総会議案から転載）